



hida
広報

ひだ

町木



第88号
肥田町
まちおこし
推進協議会

自治会長就任にあたって

自治会長 西田幹雄

余寒ようやく速のき、春の足音も間近に聞こえる今日この頃、町民の皆様におかれましては、益々ご清祥にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平素は、自治会の運営並び活動に格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。この度、数多くの諸先輩がおられる中、肥田町の自治会長の重責をお預かりすることになりました。初めての体験で不安いっぱいですが、役員各位及び町民の皆様のご理解とご支援をいただきながら、精一杯勤めたいと思いますので、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

昨年の夏は、今までにない猛暑で、何度か台風が接近するなど異常気象にも見舞われ、大変不安に過されたことと思いますが、幸いにも肥田町では、大きな自然災害もなく平穩に生活でき、大変感謝しているところです。肥田町では、鈴鹿連山から昇る朝日に今日も一日生かされていくという喜びを感じ、秋には田畑に黄金色の稲穂がたわわに実るなど、豊かな自然環境に恵まれた地域です。今年

は、年号も変わり、新たな時代を迎えます。琵琶湖に沈む夕日がさざ波に映るような穏やかな年であるよう願わずにはいられません。

最後になりましたが、先輩方のご指導と町民各位のご理解、ご支援をいただきながら、役員一同、明るく住みよい良いい町づくりをすすめたいと思っておりますので、ご協力を宜しくお願い申し上げます。



農事改良組合長就任にあたって

農事改良組合長 青木祐樹

町民の皆様には、平素より農事改良組合の諸行事に、協力を賜り厚くお礼申し上げます。四月より改良組合長の職を拝命致しました。何分初めてのことで不十分なこと多々あるかと思っております。歴代の諸先輩はじめ、町民の皆様のご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昨今の少子高齢化や若者の地元離れにより、町内の組織運営（子ども会、公民社、自警団など）では既に顕著な影響が生じています。農業でも、これから十年先を見据えると、担い手問題が深刻な問題になってきます。今後の農業労働力を確保していくためには、若者や女性の参画、あるいは町外者の雇用、自動化による農機の無人運転などが考えられますが、簡単に実現できることでもありません。

町民の皆さんのご協力のもと、知恵と労力を出し合い前向きに取り組むことで、多様な活動が可能になるのではと期待を寄せている次第です。

この号を読まれる頃には、既に新元号が発表されていることと思います。平成が新元号へ変わる節目の年にあたり、気分も一新して臨んでいく所存であり、ですので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。



ご入学おめでとう

本持瑚子（もともち）ごごさん
お父さん・宏さん お母さん・真弥さん



わたしはおきくなつたら、ママとアイスクリームやさんになりたいです。いろいろなアイスクリームをつくりたいです。わたしのすきなことは、えをかくことです。おねえちゃんにおしえてもらって、もつともつとじょうずになりたいです。



新年度役員名簿

自治会長	西田 幹雄				
副自治会長	薩摩 三次	会計部長	元持 清	文教部長	藤野 人美
福祉部長	辻野 賢治	環境部長	元持 光正	体育部長	松村 基男
農事改良組合長(兼)自治会協議員	青木 祐樹				
副組合長(兼)自治会協議員	薩摩 隆司	会計(兼)自治会協議員	宮川 誠		
自治会顧問	児玉 和男				
まちづくり委員長	薩摩 四郎	副委員長	藤野 真理		
自警団長	薩摩 祐大	副団長	藤野 元太		
福寿会会長	宮川 喜弘	副会長	藤野 真理		
女性会会長	鶴野 幸代	副会長	元持 弘恵		
中学校委員	鶴野 峰子				
子ども会会長	本持 真弥	副会長	薩摩由里子		
ボランティアサークルひだまり会長	松枝 義人				
環境ボランティア肥田の会会長	薩摩 四郎	同事務局次長	藤野 真理		
農事組合法人ファーム肥田理事長	成宮 一郎	同副理事長	辻野 久和		
民生児童委員	森野 美佐子				
稲枝東小学校同窓会委員	藤野 信敏				
稲枝中学校同窓会委員	鶴野 真明				

去る二月三日、自治会や農事改良組合の総会が開催されました。自治会内の諸団体でも相次いで総会が開催され、新年度の役員体制が固まりました。新元号幕開けの年ですが、少子高齢化や町民意識の多様化、個性化などを背景に、難しい時代に入っています。役員の皆様には、ご苦労様ですが、よろしく願います。

まちおこし推進協議会構成諸団体 執行体制決まる

次世代につなぐ集落営農

(農) ファーム肥田 辻野久和

昨年末にTPPが、この二月にはEUとの間でFTAが発効しました。今後、米中間の貿易摩擦の展開次第では、農業を取り巻く環境は予断を許しません。ポピュリズム的なトランプ政権は、我国に対してどのような問題を提起するのかは不透明です。とりわけトランプ政権の支持母体である保守層の農業団体は、より一層市場開放を持ち掛けるでしょう。経営体力の弱い日本の農業は、多くの人が試練に立ち向かうことになりそうです。

今日までの農業政策は、農民が政治家の集票マシーンであったため、補助金等により優遇されていたように思います。また、昨今の統計調査問題から考えますと、食料自給率三十一%という数値にも疑問が付きまといまいます。食料ロスでの廃棄食品や畜産での外国産の飼料等々、実態はもっと低いのではないかと思われますし、ひと昔前からすると、現代の人間は食物を粗末にしているようにも思います。もし外国で紛争が勃発したら、原油や食料は大きな影響を受けるでしょう。また、今後の労働人口の減少は切実です。ファーム肥田の労働者平均年齢は六十五歳、後何年働けるでしょうか、近々の問題です。日本の人口は二〇五〇年には一億人を切り、逆に地球の人口は増加の一途で、二〇五〇年に九十八億人になる(注:二〇一八年七十六億人)と言われています。世界中で食料の奪い合いが起こり、外国に食料を依存している我国の状況に光明はあるのでしょうか。

こうしたことを考えますと、果たして、今の農業政策に未来の展望はあるのでしょうか。かつては農民・農村を守る政策が図られ、今は担い手として大規模農業経営者を育てようと言われて、これが株主会社等が農業に参入し、食料産業化していくようになるとして、地域農業などに視点は向いていないようです。ファーム肥田が地域の農業を守るために法人化して八年目になります。次世代へ地域農業を継承して、今後に降りかかる困難を克服するには、人材育成や経営の健全化を推進する必要があります。従来型の農業から脱却し、経営戦略に見合った体力強化が求められています。

こうした観点から、昨年度より従来の経営を見直し、いくつかの事業戦略をうちだしました。販路の新規開拓や資材単価の見直し等による製造原価の縮減により、収益の確保を図ることができました。本年度は、引き続き経営の改革に積極的に取り組み、安心して次世代へ引き継げる農業を目指して行きます。特に環境に優しいコメ作りで「環境こだわり・みずかがみ」を前面に、これから起こるであろう産地間競争を生き抜くなど、体力強化に取り組みますので、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

ボランティアサークル「ひだまり」 和み会の催し

二〇二五年問題と言う言葉に代表されるように、急激な少子高齢化が進んでいます。今、元気な老人も、老人意識のない老人もやがて老人らしくなっていくでしょう。こうした時代の訪れに対応していくため、地域で支え合う福祉の充実が求められています。

肥田町では、まずはできることからと、ボランティアサークル「ひだまり」さんが、八十歳以上の方々を対象に、年数回のサロン活動が実践されています。参加者も高齢者ならボランティアも高齢者、いわば「高齢者の高齢者による高齢者のための」福祉活動です。

町内を眺めてみますと、現実には、高齢者世帯や単身高齢者、要支援高齢者、要介護者が増えていく中、地域として生きがいと温もりのある社会を築いていくことは待ったなしです。福寿会組織が弱体化しつつある中、大きな歩みとして期待が膨らみます。

今回、その様子について、広報副担当の成宮為夫氏から投稿がありましたので紹介します。

「去る十二月二日、和み会を開催しました。社会福祉協議会の小沢氏を講師に頭の体操をした後、南米ボリビア出身で日野町在住のリマ・ミゲルさんと浦田ひろみさん、近江八幡市在住の



ナカさんによるアンデス音楽・キルクニヤの『コンドルは飛んでいく』など、心に響く演奏を演奏させていただきました。

ボリビアには琵琶湖の十二倍の大きさのチチ・カカ湖があり、日本人と同じ蒙古斑があるなど、ボリビアが滋賀県と親しみの深い内陸国であることが紹介されました。また、ケーナやサンボニーヤなどのお国柄の楽器を見せていただきました。

(編集者から一言)

ボランティアサークル「ひだまり」の活動は自治会の補助もなく、アルミ缶回収による財源で賄われています。町民の皆様には、種々事情もあると思いますが、アルミ缶回収にご協力いただくと、支援をお願いします。(詳しくはボランティアの方々へ)

河川改修工事実施される

平成二十九年度から実施されている額戸川(注①)と宇曾川からの生活用導水路(注②)が並行して流れる箇所(寺井湯ポンプ場から旧乙合堰までの間の仕切り隔壁の撤去工事が今年も始まりました。このため、寺井湯のパブリックムは倒伏された状態になっています。工期は四月二十三日までです。

なお、この工事では、宇曾川堤防の管理用として、堤防下部(導水路横)に通路の設置工事も行われています。少子高齢化の中、堤防除草作業が苦痛となる時代、省力化への対応策が期待されます。

注① 河川の起点に表示されている管理石の標記が額戸川とされています。

注② 寺井湯井堰から宇曾川用水を取水して金沢町などの生活用水となっている導水路



防災講習会が開催されました

笠原恒夫氏を講師に防災講習会が開催されました。概要をお伝えします。

「日本は繰り返しの災害に見舞われ、先人が災害から身を守り生きてきた歴史があります。米沢藩主の上杉鷹山は三助という言葉で地域を守ることを伝え、五十組合の令(まず五人組が助け、足らなければ十人組が、また足らなければ...)を定めました。今の時代にも通じる考え方です。少子高齢化や核家族化、生活様式の多様化などによって住民意識が変化し、地域社会の繋がりが希薄化しています。安心・安全な暮らしのため、地域の繋がりを大切にして欲しい。そのことを通じて、自助、共助、公助をつなぎ、地域防災力を高めて欲しい。

滋賀県には五つの大きな活断層があります。彦根は鈴鹿西縁断層帯の影響が大きい。自助として行うこと(防災知識、情報収集手段、非常持出しなど)、共助として行うこと(地域コミュニティの活性化、避難所運営など)を具体的に実践し、地域の安全を高めて欲しい。」

お悔やみ

安らかに眠りください

薩摩 よし江さん 享年九十三歳
(平成三十年十二月十四日逝去)

ふるさと歴史探訪記 4

高瀬 俊英

肥田城水攻めの顛末

近江の守護大名は六角氏でしたが、湖北に戦国の大名、浅井氏が力をもち始めると、それになびく国人、土豪が湖東にも現れました。

六角氏はそれを懲らしめるために、肥田城主、高野瀬秀隆に対し、以下、近江小間權から。

「屋形（六角氏）父子謀計ヲ回ラシ玉ヒテ、……国中ノ人夫ヲ以、廻リ五十八丁、横十三間二堤ヲ築、宇曾川愛知川ヲ始トシ、諸川ヨリ水ヲ仕懸、永祿二歳四月二日ヨリ当城ヲ水攻ニシ玉フ」

「次第一水増、城一里四方ハ、悉、大海ト成、城中大ニ歎難ニ及ヒ、上下男、女泣サケヒ、臍魂モ消果、目モ当ラレヌ有様ナリ」

「五月二十八日諸川洪水シテ、件ノ堤一カ所切レ崩レテ、漂タル水、忽、ニ落失ケリ。依之、秀隆運ヲ開、天我ヲ擁護シ玉ヒ、生土神犀龍ノ奇特実ニ難有次第ナリトテ、頻ニ後話ヲ催促ス」

肥田城はまさに水没寸前にして助かり、そこへ小谷城からの浅井の援軍がやってくる。六角軍を退かせたようです。

野良田表のたたかい

～まさに肥田が主戦場～

肥田城の水攻めに失敗した六角義賢は、再び軍備を整え、翌永祿三年（一六〇年）八月、一万五千の兵を率いて肥田城に押し寄せました。

急を知った浅井軍もこれに対抗して一万一千余の兵を肥田城近くに配置し、宇曾川を隔てて対陣しました。

「表」は東方を意味し、まさに肥田川原、出町辺りが主戦場だったようです。

八月中旬巳の刻（午前十時）、北軍浅井氏の先陣百々内蔵助が手兵を率いて、南軍六角氏に攻めかかり、南軍の先陣蒲生賢秀は激しく応戦しました。激闘およそ二時間の後、南軍の二陣槍崎、田中の軍勢が不意に横手から迫ったため、北軍は後退することになりました。百々内蔵助は、先陣の名譽を汚すまいと獅子奮迅しましたが、瀕死の重傷を負って、翌年死亡しました。

勝ち誇った南軍を見て、北軍の総大将浅井長政は安養寺三郎左衛門と今村掃部助とを傍らに呼び寄せ、「敵の先陣は勝ちおごっているとはいえ、殊の外疲れている様子である。機を見て、精兵をもって突撃すれば、必ず狼狽するであろう。われは敵の動揺する隙をみて本陣を

切り崩さん。」と下知し、味方を二手に分け、敵の先陣蒲生の軍に当らせると、南軍はたちまち押し返され、算を乱して背走しました。この混乱に乗じ、長政は自らも精兵を率いて、義賢の本陣に殺到すると、義賢は大敗し、南に向かつて潰走したと「江濃記」（群書類従）は伝えています。

さらに付け加えて、この合戦における南軍の死傷者は九百二十人、北軍も七百余の死傷者をだし、火災もおこり、宇曾川南の平野は惨憺たる光景であったといえます。

川原村の出町を百々町と呼称していますが、証拠はないものの、負傷して苦しむ島居本の城主百々内蔵助を村人が介抱したことに因んでつけられたのではないのでしょうか。



野良田町若宮神社境内より

編集後記

（森田喜久雄）

季節は梅から桜に変わり、いよいよ新元号時代の節目となる年度の幕開けです。新元号名、どのような名がつけられるのでしょうか。時代はどのような時代になるのでしょうか。己亥となる今年、「来るべき時に向けて準備を整える」年とされていますが、これを元年に、平成と同じく平和な日々、素晴らしい時代が訪れることを期待しています。

今、世界では、米朝首脳会談が決裂状態でしたし、米中貿易摩擦も延長協議日韓問題は複雑化して出口が見えませんが、日口の北方領土協議は期待とは程遠い状況のようですし、イギリスのEU離脱問題も未だ見通しがはつきりしません。中東ではイスラエルに新たな動きがあるようですし、世界中が不安要素に包まれています。

国内では、森友・加計問題に加え統計処理問題が発生しました。政治不信、行政不信が続く中、虐待事件も後を絶ちません。虐待事件のある専門家が「被害者と同じだけ加害者があり、加害者対策を置き去りしてきたことが被害を大きくしている」との発言が印象的でした。

まあおこし推進協議会の構成諸団体も新たな役員の皆さんが就任され、いよいよ活動が開始されます。役員の皆さん、大変、苦勞者ですが、よろしくお願います。